

第4回コース説明

皆様、待ちに待ったお花見の季節が来ました。第4回は湘南台のお花見コースをご紹介しますのでお楽しみください。

またチェックポイントにはしていませんが、徳本上人名号碑もご紹介します。

徳本上人名号碑

徳本（とくほん）は、江戸時代後期の浄土宗の僧・念仏聖。俗姓は田伏氏。号は名蓮社号誉。紀伊国日高郡の出身。徳本上人、徳本行者とも呼ばれる。念仏行者として全国を巡錫し、「流行神」と称されるほど熱狂的な支持を集めた。

【略歴】

天明4年（1784年）、27歳のとき往生寺（御坊市）にて得度し、徳本と称する。草庵に住み、1日1合の豆粉や麦粉を口にするだけで、ひたすら念仏を唱え続けた。また、水行をしたり、藤の蔓につかまって崖をよじ登るなど、他に例のない過酷な修行をしたことも伝えられており、行場跡も多く残っている。

寛政6年（1794年）、次第に世に知られるようになったころ、全国行脚を開始。巡礼において道歌や俗歌を交えて教えを説いたため、民衆から大きな支持を得た。また徳本の念仏は、木魚と鉦を激しくたたくという独特な念仏で徳本念仏と呼ばれる。

享和3年（1803年）、江戸に出、さらに各地に巡錫して熱狂的に迎えられ、「流行神」と称されるほどの人気となった。生き仏を拝むがごとく、一般大衆から大名まで広く崇敬を受けた。

【徳本の名号碑】

巡錫は近畿、東海、関東、中部、北陸など、驚くほど広い範囲におよび、上人の足跡を物語る石碑（名号碑・念仏碑・念仏塔）は、徳本行者名号碑一覧表」によれば、1位は長野県の429基（長野市94基、松本市73基、塩尻市45基）で、2位の和歌山県（121基）を大きく引き離している。全国各地に1500基以上確認されている。

徳本上人は独特な字で「南無阿弥陀仏 徳本」と書き、信者たちに分け与えた。それを石に刻んだのが名号碑である。

【徳本と小林一茶】

小林一茶は現在の信濃町に生まれ、俳人として頭角を現したが、徳本のことを幾度も日記に記し、いくつも句に詠んでいる。敬慕の対象であった。

「聖人に見放されたる桜哉」 - 植物である桜も徳本上人を慕い、名残を悲しんでいる。

「雀子も梅に口開く念仏哉」 - 雀の子も梅に対して念仏を唱えている。

「徳本の念仏ともなれ石の露」

「徳本の腹をこやせよ蕎麦（の）花」

と詠んでいる。

湘南台マチタン第4弾 お花見コース

スタート

↓
CP1 渋谷ヶ原公園

↓
CP2 渋谷の里公園

↓
CP3 湘南台高校入口交差点の
横の掲示板

↓
参考 徳本上人名号碑

↓
CP4 円行公園

↓
ゴール

